

★VOL 12 令和3年5月7日発行



絵本の楽しさをあすそ分け

■「あかちゃんですよ はいどうぞ」

うしろよしあき／文 鈴木智子／絵

歩き始めたばかりの赤ちゃんが、動物から動物へ抱っこされたり、おんぶされたりしながら運ばれていく…くり返しと変化が楽しい絵本。●動物たちの笑顔と運び方が楽しく、読み聞かせにピッタリ！●10ヶ月くらいから。



■「ぴぼん」

内田麟太郎／作

ぴぼん

どう読んだらいいのか迷うかもしれませんが、親がおもしろがって読むと、その気持ちが読んでもらう子どもにも伝わる作品。●意味のない「音ことば」が続き、黄色い形と点がページをめくっていくと顔らしきものに変化していきます。最後は一転してはじけるように終わり、子どもの反応が楽しみ。1歳くらいからどうぞ。



■「おかしのずかん」

大森裕子／作

シリーズ5作目で最新作。●〈パイとタルト〉〈ちいさなやきがし〉など、細かな分野の分け方で、見開きのページいっぱいたくさんのお菓子の紹介をしています。どれもおいしそうな絵！●著者の同シリーズには、「パンのずかん」「めんのずかん」「ねこのずかん」「おすしのずかん」があり、図鑑としての役割だけではなく、紹介しているモノを使って楽しむ遊びのページもあり、お得感たっぷり。18センチのサイズに詰まっている情報量の多さも充実しています。●「お菓子」と「パン」には、生まれた国の国旗がオマケとして付いています。●5歳くらいからおとなまで。



■「しんごうきょうだいの にちようび」

もとやすけいじ／作

交差点の歩行者用信号機たちの楽しみは週1回の歩行者天国。この日は自動車が行かないので、信号機たちはお休み。なので、赤と青の人型マークの信号たち16人は、休日を楽しむために信号機から飛び出し、街中へ…。●表紙をめくると信号機の1週間が描かれ、信号が赤から青に変わる間に信号が何をしているのかの秘密が明かされ…歩行者信号機のマークを主人公にしてお話を作る作者のアイデアと青と赤のリーダー



役を設定する小技が光っています。●マークを擬人化する想像力が高まる4歳くらいから小学校低学年に。

■「まってました」

もとしたいづみ／文 石井聖岳／絵

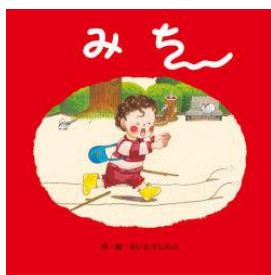
たろうが川のそばで何かを待っています。動物たちがやってきては、たろうと一緒に仲間に加わります…前半の「のんびりと〈何かが来るのを待っている〉から、後半の〈待ち望んでいたことが実現する：まってました〉へダイナミックに変わる瞬間がこの絵本の楽しさ！です。動物たちが一緒にいることが迫力ある〈まってました〉につながっています。●3歳くらいから。



■「みち」

さいとうしのぶ／作

子どもが持っている遊びの空想力を形にした作品。●はるちゃんが棒を2本持って道を書いています。すると道が勝手に延びていきます。追いかけていくとへんてこなパン屋さんやワニがいる橋があったり…楽しいこと、ちょっと怖いけれど勇気を出して乗り切ることなど、子どもは身近なものを遊びに変えていく想像力に富んでいることを示しています。●最後のページからは、十分遊んで楽しかったことが伝わってきます。読んでもらう子どもが共感できる絵本。●3歳後半くらいから。



■「うしとざん」 高島邦生／作

1月号で紹介した「でっこりぼっこり」は、〈巨大な足型〉が引き起こす想像を超える世界を描いていましたが、この作品では、〈大きさを意識的に変えてしまうと世界はおもしろくなる！〉を狙ってい

るかのよう。●牛を山に見立てて登ることから始まる、人を極端に小さくしたり、牛の背中で繰り広げられる日常と非日常…ただただおもしろがってへんてこりんな世界を楽しむに限ります。●5歳くらいからおとなまで。



■「うんめえ めえし

のはらごはん」

おくはらゆめ／作

食 べることと料理が大好きなヤギの兄弟／あんちゃんともなちゃんが



野原に出かけ、おいしい食材を探し、料理を作るお話。●どのページからも2匹がおいしい料理を作りたいという喜びの表情があふれてきます。●作者の絵は、のどかであたたかく、2匹が作るおいしい料理を見るだけで読み手も幸せな気持ちになります。●あんちゃんともなちゃんの本物の姿になるほどとうなずき、おまけのレシピ7種類の〈のはらごはん〉はおいしそう。●4歳くらいから。

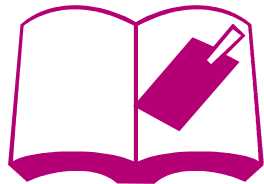
■「にくにく しろくま」

柴田ケイコ／作

食 いしん坊のシロクマが、自分自身が食べ物の中に入ったらどんな感じかなと想像をふくらませるとこうなる！を絵本にしたシリーズ7



作目の新作。見開きで13種類の肉料理に入るシロクマの幸せな表情とおいしさレポートは格別。●「おいしそうな」「あまーい」「おべんとう」「うみのごちそう」「おやさい」「あかい」のシリーズ全巻が揃っています。●3歳くらいから。



本との出会いを ボーイズ＆ガールズに

■「はるかちゃんが、手をあげた」

服部千春／作 さとうあや／絵

病気で小学校に入
学するタイミン
グが遅くなったばかり
にクラスの仲間入りが
できなくなったはるか
ちゃんは、話せなくな
ってしまい、2年生に
なってもそのまま一言も話しません。●話
さないで済むことにすっかり慣れてしまっ
たはるかちゃんですが、元気いっぱい
でクラスの人気者あきら君が隣の席になっ
たことで少しずつはるかちゃんに変化が起
こります。●はるかちゃんの心をほぐして
いくあきら君のおせっかいで天然のキャラ
クターが魅力的。●表紙も含めて、絵の中
の子どもたちの表情がステキです。これ
だけで読みたくなるかも…。●小学校低
中学年に。



まくなるんだ」という言葉がとても大事な
メッセージとして読み手の心にしみこみま
す。●小学校中学年に。

■「つくしちゃんとおねえちゃん」

いとうみく／作 丹地陽子／絵

お姉ちゃんは小学
校4年生で頭が
良くてピアノもじょう
ずでしっかり者。2年
生のつくしはのんびり
屋で、お姉ちゃんが好
好き、自慢です。●物
語は、通学やドッジボ
ール、お祭りなどお姉
ちゃんをつくしの日常
のできごとを題材に、
右足をちょっとひき
ずるお姉ちゃんのひた
むきでがんばる姿や
お姉ちゃんをつくしが
ケンカをしながらも
お互いを認め合い、思
い合う姿を描いてい
ます。5つの短いお
話は、どれも心に響
きます。絵に2人の性
格が出ています。●
小学校中学年に。



■「ようふくなおしのモモ之又」

片山令子／作 さとうあや／絵

町の洋服屋でお針
子をしていたキ
ツネのモモ之又は、シ
ナモン村のはずれにあ
る丘の上に〈洋服直し〉
のお店を開きました。
●洋服を大切に着る村
の動物たちが次々とや
ってきて、その一つひとつの出会いが心温
まるお話になっています。最後に、モモ
之又のお店、中庭のあるステキな古い家に関
わる秘密も明らかになり…作中の「ひとつ
しかないようふくを、ていねいになおして、
たいせつにきていると、ひとつしかないか
らだを、たいせつにしていけることが、う



■「さくら村は大さわぎ」

朽木祥／作 大社玲子／絵

幸せな気持ちにな
れる連作短編集。
●さくら村のあちこち
の家々には桜の木があ
ります。子どもが生ま
れると桜を1本植える
からです。だから村に
は桜がいっぱい。●お
話を進めていくのは、
さくら村の小学校3
年になるハナ、サッチ
ャン、ケンちゃんた
ち。第1話では、ハナ
のお兄ちゃんのヘルメ
ットの中にセキレイが
巣を作りヒナを育



てます。お兄ちゃんはヘルメットと自転車通学をあきらめ、巢立ちをするまでハナたちと一緒に歩いて通学。のんびりとしながらほほえましいエピソードで始まります。他に、バードカービングをするくらいカワセミが好きなカワセミじいちゃんのお話、新しい住人になったおいしいパン屋さん家族のお話など、心温まるお話がいっぱい！●そして最後に、さくら村らしいおめでたいお話が用意されています。●小学校中高学年に。

■「クルミ先生と まちがえたくないわたし」

令丈ヒロ子／作 雛川まつり／絵

小学5年生の女の子モトキはお父さんと暮らしています。●始まりは、おとうさんの出張の間、いとこのお医者さん／クルミさんの診療所で過ごすところから。●クルミ先生は勉強熱心で腕も良く、患者にもとことん向き合いますが、料理や掃除など家事は苦手。また、診療所は古い建物なので、近くの設備が整った人気の医院と比べて苦戦しています。●物語のメインは、モトキが作った住居一体型の診療所の再生計画です。著者あとがきの「町のお医者さんのすがた、また医院をともに支えている医療スタッフ、家族のすがた」を読者に伝えたいという思いが、モトキとクルミ先生とのぶつかりあい、スタッフのえい子さん、太ーさんの励ましなど、いくつものできごとを通して描いています。●小学校高学年に。



■「サイコーの通知表」

工藤純子／作

学期ごとに先生から子どもたちに渡される通知表って何だろう？、先生の通知表をつけたらどうなるんだろう？を4年3組30人のクラスメイトで考え、実現

させてしまう物語。●きっかけは、〈できるともうすこし〉ばかりの大河（たいが）と〈できる〉ばかりの朝陽（あさひ）の通知表をめぐるちょっとした争いから。その空気がクラス全体に広がり、通知表は嫌い、いらないという声に…。本人ががんばっていても〈もうすこし〉だったり、〈できる〉ばかりは〈普通だってこと〉になったり、評価表の〈よくできる・できる・もうすこし〉と自分とのギャップをみんなで考え始め、「ねえ、先生の通知表をつけようよ」とクラス全体がまとまります。●この作品では、〈相對評価と絶対評価の違い〉や〈わかりやすい通知表って何？〉も子どもたちが考え、最終的には担任のハシケン先生の通知表を作り、最後の章〈通知表、発表します！〉で、クラス全体の研究発表としてハシケン先生に贈ります。子どもたちが考えた〈評価〉の方法がお見事！●小学校高学年から中学生に。



■「恋話・ミラクル1ダース」

にかいどう青／作

1 話20ページほどの短い話が

12編収められています。●中学生の学校生活で繰り広げられる非日常的で胸キュンのストーリーになっている



ので、女の子にオススメ。●最初の「思いの丈フラワーズ」の始まりは、同級生の花村マモルの頭に赤いチューリップの花が咲いているシーンから。クラスみんなは興味がないらしいが、私／野崎ルリカは気になって仕方がない。●頭に花が咲くというあり得ない設定ながら、花言葉をうまく使い、かわいらしい胸の内の表れに変えているところが心憎い演出。●いろいろなパターンの話があり、自分好み、その時の気持ちに合う話を拾い読みができます。